

第78期

事業報告書

(自 平成26年10月1日)  
(至 平成27年9月30日)

*Nimblox*

助川電気工業株式会社

# 株 主 の 皆 様 へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第78期（自平成26年10月1日 至平成27年9月30日）の会社の状況等につきまして、以下のとおりご報告申し上げます。

平成27年12月

代表取締役社長 小 瀧 理

## 1. 会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過および成果

当事業年度における我が国経済は、円安傾向の継続による輸出関連企業の収益押し上げや、雇用・所得環境に回復の動きが見られ、緩やかな持ち直しの傾向が見られたものの、中国経済をはじめとした海外景気の下振れによる影響が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社におきましては、前期のような一時的に特別な受注がなく全体的に作業量が減少するなか、熱と計測に関するコア技術を生かしたシーす熱電対・ヒータ・信号ケーブル等を中心に受注の確保を図るとともに、電磁ポンプを軸とする溶融金属機器の充実および個人別稼働計画の推進等による社内の生産体制の最適化等を図ってまいりました。

この結果、売上高は前期に比し、7億4千9百万円減の42億7千2百万円（前期比14.9%減）、営業利益は前期に比し、7千4百万円減の3億3千4百万円（前期比18.2%減）、経常利益は前期に比し、9千5百万円減の3億3千4百万円（前期比22.1%減）となり、当期純利益につきましても、前期に比し6千7百万円減の2億9百万円（前期比24.5%減）となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

(エネルギー関連)

エネルギー関連につきましては、核融合関連製品の新規受注等があったものの、前期において、福島第一原子力発電所の事故以来、計画が延期されていたものが再開するなど、原子力関連製品全般の受注および納期が集中したことの影響が大きく、売上高は21億7千7百万円（前期比21.4%減）となりましたが、セグメント利益（営業利益）につきましては、生産体制の最適化等の効果により前期とほぼ同額の4億1千7百万円（前期比0.0%増）となりました。

(産業システム関連)

産業システム関連につきましては、半導体、液晶パネル製造装置向け基板ヒータを中心に受注面は比較的順調に推移いたしましたが、売上面においては、半導体製造装置関連製品が減少したことにより、売上高は18億6千5百万円（前期比5.2%減）となり、セグメント利益（営業利益）につきましても、2億3千7百万円（前期比12.0%減）となりました。

(その他)

その他につきましては、採算性が悪化した飲食店舗1店舗を平成27年3月に閉鎖したことにより、売上高は2億2千9百万円（前期比18.6%減）と減収となりましたが、セグメント利益（営業利益）につきましては3百万円（前期比226.3%増）となりました。

事業区分別の売上高および受注高

事業の区分	売上高	受注高
エネルギー関連	2,177,028千円	2,004,687千円
産業システム関連	1,865,939千円	2,181,908千円
小計	4,042,968千円	4,186,595千円
その他	229,989千円	5,796千円
合計	4,272,957千円	4,192,392千円

(注) その他の売上高には、食関連事業の売上高が含まれております。

## (2) 対処すべき課題

従来の核分裂を利用した原子力関連需要は、福島第一原子力発電所の事故の影響により、軽水炉はもとより、液体金属ナトリウムを冷却材として使用する高速増殖炉関連も低調に推移せざるを得ない状況が続くものと思われます。

このような状況のもと、当社のコア技術を生かし、シース熱電対・ヒータ・信号ケーブル等の製品を、火力および風力発電、半導体・液晶製造装置および各種プラント等広範囲にわたり拡販すること、および電磁ポンプを軸とする熔融金属機器の充実を図り、自動車および核融合関連等の受注確保にも注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(3) 設備投資の状況

当事業年度におきましては、産業システム関連設備および生産管理システムを中心に9千9百万円の設備投資を行いました。

(4) 資金調達の状況

該当事項はありません。

(5) 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

(6) 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

(7) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

(8) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況

該当事項はありません。

(9) 財産および損益の状況

区分	期	第 75 期	第 76 期	第 77 期	第78期(当事業年度)
	期間	平成23年10月～ 平成24年9月	平成24年10月～ 平成25年9月	平成25年10月～ 平成26年9月	平成26年10月～ 平成27年9月
売上高		3,604,085千円	4,227,489千円	5,022,083千円	4,272,957千円
経常利益		98,731千円	309,492千円	429,457千円	334,389千円
当期純利益		36,285千円	191,043千円	276,868千円	209,012千円
1株当たり当期純利益		5円45銭	28円68銭	42円29銭	33円05銭
純資産		3,501,312千円	3,685,600千円	3,714,662千円	3,787,666千円
総資産		5,982,842千円	6,312,762千円	6,329,404千円	6,292,798千円

## (10) 重要な親会社および子会社の状況

- ① 親会社との関係  
該当事項はありません。
- ② 子会社の状況  
該当事項はありません。

## (11) 主要な事業内容

当社は、電気機械器具、精密機械器具、食品等の製造および販売ならびに調理機器等の開発と飲食店の経営を主な事業とし、これら製品に付帯する設備工事等これに関連する事業を営んでおります。当社の事業内容は次のとおりであります。

- ① エネルギー関連  
主要な製品は、原子力・火力発電所の温度制御関係および研究機関の安全性確証試験装置に使用されております。
- ② 産業システム関連  
主要な製品は、鉄鋼・自動車・半導体・液晶等の製造装置の「熱と計測」に関する部分に広く使用されております。
- ③ その他  
主に飲食店の経営を行うとともに、当社技術による調理機器等の開発を行っております。また、健康補助食品の製造および販売を行っております。

(12) 主要な営業所および工場

本社事務所	茨城県高萩市上手綱 3333-23
高萩工場	
滑川工場	茨城県日立市滑川本町 3-19-5
東京支店	東京都千代田区内神田 3-16-9 (松浦ビル)
大阪営業所	大阪府大阪市北区南森町 1-1-25 (八千代ビル南館)
広島営業所	広島県広島市東区光町 1-9-28 (第一寺岡ビル)
つくばオフィス	茨城県つくば市千現 2-1-6 (つくば研究支援センター C-A-9)

(13) 従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
194名	3名増	45.5歳	21.2年

(14) 主要な借入先

借入先	借入額
株式会社常陽銀行	1,293,320千円

(15) その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の状況に関する事項

### (1) 株式に関する事項

- |            |             |
|------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数 | 16,800,000株 |
| ② 発行済株式総数  | 6,710,000株  |
| ③ 株主数      | 920名        |
| ④ 大株主      |             |

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
株式会社ドゥメキエンタープライズ	839,000株	13.27%
百 目 鬼 孝 一	569,940株	9.01%
東京中小企業投資育成株式会社	357,850株	5.66%
株 式 会 社 常 陽 銀 行	312,000株	4.93%
株 式 会 社 常 陽 リ ー ス	207,000株	3.27%
島 田 睦	200,000株	3.16%
常 陽 信 用 保 証 株 式 会 社	164,000株	2.59%
茂 角 広 子	153,941株	2.43%
助川電気工業従業員持株会	143,369株	2.27%
小 方 高 明	132,000株	2.09%

(注) 持株比率は自己株式(386,973株)を控除して計算しております。

### ⑤ その他株式に関する重要な事項

当社は、平成27年8月6日開催の取締役会における決議に基づき、平成27年10月1日付をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

### (2) 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。



### 3. 会社の体制および方針

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制は、次のとおりであります。

#### (1) 取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

取締役は、定期的または必要に応じて随時開催する取締役会において、職務執行の状況を報告するとともに、相互にその職務執行を監督します。また、社外監査役を含む各監査役は、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、業務執行状況の調査等を通じて、取締役会の職務執行について監査します。

#### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役会議事録、稟議決裁書類等の取締役の職務執行に係る情報については、文書または電磁的媒体に記録し、文書管理規程等の社内規則に基づき、適切かつ確実に保存および管理します。また、取締役、監査役または内部監査部門がこれらの文書等の閲覧を要請した場合には、直ちに提出できる体制とします。

#### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

各担当部署において、必要な諸規程、教育訓練制度の整備を行い、リスク要因に関する管理を行います。

なお、組織横断的リスク状況の監視および全体的な対応は管理本部が行うものとし、新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに対応責任者となる取締役を定めます。

#### (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

毎年策定される年度計画に基づき各取締役が目標達成のための活動を行います。また、経営目標が予定どおりに進捗しているか、その実績を月次単位で管理することにより、定期的に検証を行います。

日常の職務の執行に際しては、取締役の担当業務を明確化させるとともに、定期的に開催する常務会を通じ、情報共有を行い、迅速な意思決定と効率的な職務執行を実施します。

**(5) 使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制**

各種法令遵守の啓蒙・教育活動の継続的实施により、法令遵守への理解と意識を常に高めるよう努めます。

**(6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項**

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、早期に体制を整備し、必要な人員を配置します。また、監査役の職務を補助すべき使用人は、業務執行上の指揮命令系統には属さずに監査役の指揮命令に従うこととし、当該使用人の任命、異動、評価等に関しては、監査役会の事前の同意を得た上で決定するものとします。

**(7) 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制**

監査役が、重要な意思決定のプロセスや業務執行の状況を詳細に把握するため、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、稟議決裁書類その他の業務執行に関する文書等をいつでも閲覧し、必要に応じて取締役および使用人にその職務執行の状況報告を求めることができる体制とします。

取締役および使用人は、監査役または監査役会に対して、法定の事項に加えて、当社の経営に重要な影響を及ぼすおそれのある事実、内部監査の実施状況ならびに監査の必要上において報告を求められた職務執行の状況について、速やかに報告する体制とします。なお、監査役または監査役会への報告を行った取締役および使用人に対し、当該報告をしたことを理由として、不利な取り扱いを行わないものとします。

監査役が職務の執行のために合理的な費用の支払いを求めた場合には、これに応じるものとします。

**(8) その他監査役が監査が実効的に行われることを確保するための体制**

監査役が、代表取締役、会計監査人、内部監査部門と定期的に意見交換の機会を持ち、監査上の意見および情報の交換を行うことにより監査の実効性を確保できる体制とします。

当社は上記方針に基づき、以下の取り組みを行っております。

① コンプライアンスに関する取り組み

当社は、経営理念の浸透とコンプライアンス意識の向上を図るため、役職員全員を対象に研修を行っております。また、各部門の管理監督者で構成する委員会を定期的に開催し、コンプライアンス体制の強化を図っております。

② リスク管理体制に関する取り組み

取締役、監査役ならびに各部門の管理者の連携を強化し、当社で対応すべきリスクの評価、当該リスクへの対応策、当該対応策の進捗状況の点検を行っております。また、リスクが発生した場合の再発防止に関する検討を行っております。

個別取引、資金管理等を含めた財務報告に関するリスクについては、内部監査部門による内部統制評価の整備と運用の評価を行っております。

③ 業務執行の適正確保および効率性に関する取り組み

取締役会において法令および定款で定められた事項およびその他の事項に関して報告を密に行うことにより、取締役相互の職務執行に関する監督を行っております。決議された業務執行に関する重要な事項については、各部門管理者と詳細な検討を行い、効率的な業務執行を行っております。

④ 内部監査の取り組み

内部監査年間計画に基づき、内部監査を実施しております。その結果は、取締役および監査役に報告しております。

⑤ 監査役への情報共有の取り組み

監査役は、取締役の職務執行の妥当性や適正性を確認するため、取締役会その他会議への出席、事業所への往査を行うとともに、代表取締役より意見の聴取を行っております。

# 貸借対照表

(平成27年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>3,843,680</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,161,030</b>
現金及び預金	1,165,203	支払手形	188,165
受取手形	99,883	電子記録債務	138,626
電子記録債権	123,953	買掛金	245,144
売掛金	1,545,393	短期借入金	1,240,000
商品及び製品	140,371	1年以内返済予定の長期借入金	16,008
仕掛品	399,241	リース債務	7,839
原材料及び貯蔵品	288,163	未払金	3,726
前払費用	8,717	未払費用	161,967
繰延税金資産	61,231	未払法人税等	40,001
その他	15,119	未払消費税等	23,301
貸倒引当金	△3,600	前受り金	5,345
		前受り益	5,304
<b>固定資産</b>	<b>2,449,118</b>	前受り益	2,044
<b>有形固定資産</b>	<b>1,704,166</b>	賞与引当金	74,490
建物	582,120	設備関係支払手形	9,066
構築物	48,037	<b>固定負債</b>	<b>344,101</b>
機械及び装置	132,131	長期借入金	37,312
車両及び運搬具	411	リース債務	24,475
工具器具及び備品	22,531	退職給付引当金	274,110
土地	886,304	資産除去債務	7,848
リース資産	29,921	その他	355
建設仮勘定	2,708	<b>負債合計</b>	<b>2,505,132</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>35,689</b>	<b>(純資産の部)</b>	
借地権	29,919	<b>株主資本</b>	<b>3,743,423</b>
ソフトウェア	5,769	資本金	921,100
<b>投資その他の資産</b>	<b>709,262</b>	資本剰余金	1,164,309
投資有価証券	438,160	資本準備金	1,164,236
出資金	90	その他資本剰余金	73
長期貸付金	118,664	<b>利益剰余金</b>	<b>1,872,223</b>
長期前払費用	9,081	利益準備金	138,000
保険積立金	51,912	その他利益剰余金	1,734,223
繰延税金資産	75,742	別途積立金	1,350,000
その他	20,789	繰越利益剰余金	384,223
貸倒引当金	△5,179	<b>自己株式</b>	<b>△214,209</b>
		評価・換算差額等	44,242
		その他有価証券評価差額金	44,242
<b>資産合計</b>	<b>6,292,798</b>	<b>純資産合計</b>	<b>3,787,666</b>
		<b>負債及び純資産合計</b>	<b>6,292,798</b>

# 損 益 計 算 書

(自 平成26年10月1日  
至 平成27年9月30日)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		4,272,957
売 上 原 価		3,164,742
売 上 総 利 益		1,108,215
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		773,829
営 業 利 益		334,385
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	3,752	
有 価 証 券 利 息	967	
受 取 配 当 金	5,871	
固 定 資 産 賃 貸 料	2,439	
貸 倒 引 当 金 戻 入 額	3,600	
そ の 他	7,589	24,220
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	18,064	
固 定 資 産 廃 棄 損	1,285	
そ の 他	4,866	24,216
経 常 利 益		334,389
特 別 利 益		
投 資 有 価 証 券 売 却 益	4,075	4,075
特 別 損 失		
減 損 損 失	4,566	4,566
税 引 前 当 期 純 利 益		333,898
法人税、住民税及び事業税		101,681
法 人 税 等 調 整 額		23,205
当 期 純 利 益		209,012

# 株主資本等変動計算書

(自 平成26年10月1日)  
(至 平成27年9月30日)

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計
当 期 首 残 高	921,100	1,164,236	73	1,164,309
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当				
当 期 純 利 益				
別 途 積 立 金 の 積 立				
自 己 株 式 の 取 得				
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—
当 期 末 残 高	921,100	1,164,236	73	1,164,309

(単位：千円)

	株 主 資 本					
	利 益 剰 余 金				自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計			
		別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
当 期 首 残 高	138,000	1,100,000	545,382	1,783,382	△212,123	3,656,668
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当			△120,171	△120,171		△120,171
当 期 純 利 益			209,012	209,012		209,012
別 途 積 立 金 の 積 立		250,000	△250,000	—		—
自 己 株 式 の 取 得					△2,085	△2,085
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当 期 変 動 額 合 計	—	250,000	△161,159	88,840	△2,085	86,755
当 期 末 残 高	138,000	1,350,000	384,223	1,872,223	△214,209	3,743,423

(単位：千円)

	評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	57,993	57,993	3,714,662
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当	—		△120,171
当 期 純 利 益	—		209,012
別 途 積 立 金 の 積 立	—	—	—
自 己 株 式 の 取 得			△2,085
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△13,750	△13,750	△13,750
当 期 変 動 額 合 計	△13,750	△13,750	73,004
当 期 末 残 高	44,242	44,242	3,787,666

# 個別注記表

## 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

(2) たな卸資産の評価基準および評価方法

評価の基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

製品、仕掛品……………個別法に基づく原価法

半製品、原材料、貯蔵品……………移動平均法に基づく原価法

(3) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社の償却の方法は以下のとおりであります。

建物（建物附属設備は除く）

平成10年3月31日以前に取得したもの

旧定率法によっております。

平成10年4月1日以降に取得し、かつ平成19年3月31日以前に取得したもの

旧定額法によっております。

平成19年4月1日以降に取得したもの

定額法によっております。

建物以外

平成19年3月31日以前に取得したもの

旧定率法によっております。

平成19年4月1日以降に取得したもの

定率法によっております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物および構築物 10～47年

機械及び装置 4～7年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

- ③ リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。
- (4) 引当金の計上基準
  - ① 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - ② 賞与引当金  
従業員賞与に充てるため支給見込額に基づき計上しております。
  - ③ 退職給付引当金  
従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産に基づき計上しております。
- (5) 収益および費用の計上基準  
完成工事高の計上基準  
完成工事高の計上は、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。
- (6) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項  
消費税等の処理方法  
税抜方式を採用しております。



## 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	3,740,220千円
(2) 担保に供している資産	
建物	380,754千円
機械及び装置	14,964千円
土地	580,258千円
借地権	26,081千円
合計	1,002,058千円
上記に対応する債務	
短期借入金	1,240,000千円
1年以内返済長期借入金	16,008千円
長期借入金	37,312千円
合計	1,293,320千円

## 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度の末日における発行済株式の数	普通株式	6,710,000株
(2) 当事業年度の末日における自己株式の数	普通株式	386,973株
(3) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項		

### ① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年12月18日 定時株主総会	普通株式	56,931	9	平成26年9月30日	平成26年12月19日
平成27年5月13日 取締役会決議	普通株式	63,239	10	平成27年3月31日	平成27年6月10日

### ② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年12月16日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	63,230	10	平成27年9月30日	平成27年12月17日

(4) 当事業年度の末日における当社が発行している新株予約権の目的となる株式の数	該当事項はありません。
--	-------------

## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

### 繰延税金資産

退職給付引当金	87,879千円
賞与引当金	24,455千円
賞与未払社会保険料	3,846千円
構築物	3,980千円
貸倒引当金	2,842千円
ゴルフ会員権評価損	3,529千円
一括償却資産	560千円
未払事業税	3,784千円
電話加入権	1,155千円
減損損失	26,910千円
在庫評価減	27,560千円
資産除去債務	2,242千円
その他	699千円
繰延税金資産小計	189,447千円
評価性引当額	△31,595千円
繰延税金資産合計	157,852千円

### 繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	△20,877千円
繰延税金負債合計	△20,877千円
繰延税金資産純額	136,974千円

## 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社は、主に電気機械器具・精密機械器具の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針であります。

#### ② 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形、電子記録債権および売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、取引先企業との業務に関連する株式、または、投資信託等であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、取引先企業等に対し長期貸付を行っております。

営業債務である支払手形、電子記録債務および買掛金は、5か月以内の支払期日であります。借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で5年以内であります。

資金は固定金利により調達し、金利リスクを回避しております。

#### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

##### (ア) 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権および長期貸付金について、営業本部および管理本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

当事業年度の決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

##### (イ) 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社の外貨建て営業債権は僅少であるため、為替の変動リスクも僅少であります。また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを回避するために、長期資金は固定金利を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)等の財務状況を把握するとともに、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

##### (ウ) 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を売上高の1か月分超に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

⑤ 信用リスクの集中

当事業年度の決算日現在の営業債権における特定の顧客に対する集中はありません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年9月30日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,165,203	1,165,203	-
(2) 受取手形	99,883	99,883	-
(3) 電子記録債権	123,953	123,953	-
(4) 売掛金	1,545,393	1,545,393	-
(5) 投資有価証券	382,438	382,438	-
(6) 長期貸付金	118,664		
貸倒引当金(※)	△5,179		
	113,485	124,393	10,908
資産計	3,430,358	3,441,266	10,908
(1) 支払手形	188,165	188,165	-
(2) 電子記録債務	138,626	138,626	-
(3) 買掛金	245,144	245,144	-
(4) 短期借入金	1,240,000	1,240,000	-
(5) 長期借入金	53,320	54,586	1,266
負債計	1,865,256	1,866,522	1,266

(※) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法および有価証券に関する事項

資産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 電子記録債権、(4) 売掛金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託等は公表されている基準価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

- (6) 長期貸付金

当社では、長期貸付金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの割引現在価値、または、担保および保証による回収見込額等により、時価を算定しております。

## 負債

- (1) 支払手形、(2) 電子記録債務、(3) 買掛金、(4) 短期借入金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、長期借入金については、1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	55,722

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

## 持分法損益等に関する注記

該当事項はありません。

## 関連当事者との取引に関する注記

当社と関連当事者の取引

役員および主要株主等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を有している会社	㈱ドウメキ エンタープライズ	茨城県 日立市	100,000	資産管理会社	直接 (13.4)	役員の兼任	貸付金	—	長期 貸付金	112,000
							受取 利息	2,777	—	—

(注) 1 役員およびその近親者が議決権の100%を保有しております。

- 2 取引条件および取引条件の決定方針等

貸付金については、当社株式839千株を担保として受け入れており、金利は当社の調達金利を基準として決定しております。なお、取引金額、期末残高には消費税等は含まれておりません。

## 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 599円03銭  
(2) 1株当たり当期純利益 33円05銭

## 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 会社の概要 (平成27年9月30日現在)

社名	助川電気工業株式会社 SUKEGAWA ELECTRIC CO., LTD.
設立年月日	昭和24年(1949年)2月3日
資本金	9億2,110万円
本店所在地	茨城県日立市滑川本町三丁目19番5号 (本社事務所 茨城県高萩市上手綱3333-23)
ホームページ	<a href="http://www.sukegawadenki.co.jp/">http://www.sukegawadenki.co.jp/</a>

## 役員 (平成27年12月16日現在)

取締役会長	百目鬼 孝一
代表取締役社長	小 瀧 理
取締役	佐 藤 一 雄
取締役	三 浦 邦 明
取締役	岡 田 忍
取締役	久 保 木 孝 和
監査等委員である取締役	小 須 田 邦 光
監査等委員である取締役	金 澤 純 一
監査等委員である取締役	小 野 修 一 郎

(注) 監査等委員である取締役 金澤純一および小野修一郎は、社外取締役であります。

# 株 主 メ モ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで  
定時株主総会 事業年度末日から3か月以内に開催いたします。

基準日 (1) 定時株主総会議決権 9月30日  
(2) 期末配当金 9月30日  
(3) 中間配当金 3月31日  
(4) その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めた日とします。

単元株式数 100株

公告方法 電子公告  
当社のホームページアドレス  
<http://www.sukegawadenki.co.jp/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社  
東京都千代田区大手町二丁目6番2号  
(日本ビル4階)  
〒168-8522  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
東京証券代行株式会社 事務センター  
(お問い合わせ先) ☎ 0120-49-7009  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っております。

〔郵便物送付先〕  
〔連絡先〕

(お知らせ)  
当社の株主名簿管理人である東京証券代行株式会社は、平成28年1月12日をもって次のとおり移転いたします。  
なお、郵便物送付先および連絡先につきましては、変更ございません。

〔移転後の事務取扱場所〕 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地  
(神田錦町三丁目ビルディング6F)

## 「配当金計算書」について

配当金を銀行等への口座振込(株式数比例配分方式を除きます。)または配当金領収証にてお受け取りの場合、同封いたしました「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、株式数比例配分方式をご指定の方におかれましては、お取引口座のある証券会社等にご確認ください。